

住宅から分離された *Cladosporium* 属に関する研究

○相原真紀\*, 田中辰明\* (\*お茶大・院 \*\*お茶大)

【目的】近年、住環境における真菌（カビ）汚染に対する意識が高まっている。前報において住環境の各部位における属レベルの分布を明らかにし、その発生環境要因として温度・湿度の影響を検討した。今回は、前報の調査の中で、最も多く分離された *Cladosporium* 属（クロカビ）について、さらに調査を行ったので報告する。*Cladosporium* 属は、生活環境において最も一般的な真菌（カビ）のひとつに挙げられ、数百を超える種が知られている。これは、*Cladosporium* 属が天然でも培養でも形態上大幅な変異を示すこと、子実体が壊れやすく標本の保存や観察が容易でないこと、またそもそも古い属にもかかわらず、長い間校訂が行われていないなどの理由による。そこで本研究は、*Cladosporium* 属の住環境における種レベルの分布を明らかにするため、住宅から分離した *Cladosporium* 属の同定を行い、優占種の確認およびその分布意義を検討した。

【方法】供試菌は一般住宅の空中、壁や床などから分離した *Cladosporium* 125 株である。これらを巨大培養およびスライド培養し、顕微鏡を用いて形態学的に同定し、*Cladosporium* 属の種と住環境の分布特性について比較検討した。さらに、優占種であった *C.sphaerospermum* と *C.cladosporioides* の生物学的特性を知るために基礎実験を行った。

【結果】同定の結果、*Cladosporium* 125 株のうち *C.sphaerospermum* 80 株 (64.0%)、*C.cladosporioides* 39 株 (31.2%)、その他 6 株 (4.8%) であることがわかった。この結果から、*Cladosporium* 属の分布の意義について考察を加えた。